



# 東村山市子ども読書活動推進計画

第2次（平成22年度～26年度）

進捗状況報告⑥『きょういく東村山』より

## 『子ども読書応援団養成講座』



### 子ども読書応援団

「読書応援団」って一体誰のことでしょうか？

小学校で朝の読み聞かせをしている保護者や地域の皆さん、乳児健診の会場で赤ちゃんに絵本を読み、お母さんたちに絵本の良さを伝えてくれるボランティアの皆さん、図書館や保育園などでおはなし会をしてくれるボランティアの皆さん・・・市内には子どもと本をつなぐ市民の方がたくさんいらっしゃいます。まさしく子どもの読書を支える「子ども読書応援団」です。

### ボランティアと一緒に研修を企画

子どもへの読み聞かせなんて簡単、と思われる方もいるかもしれません。ところが、「40人も子どもがいる教室で読む絵本は何がいい？」「赤ちゃんのおはなし会は絵本を読むだけでは飽きてしまう・・・間にやるわらべうたや手遊びはどうしよう？」「保育園の2歳児クラスと3歳児クラスはどう違うの？」など、様々な悩みがつきもので、良い活動をするためには研修の場が欠かせません。

そこで、図書館では5年間にわたり、連続講座「子ども読書応援団養成講座」を開催してきました。この講座の特徴は、ボランティアと図書館職員で「東村山うちのこづち」という実行委員会を作り、企画から運営まで一緒に行ったことです。日頃様々な場所で活躍するボランティアからは、「こんなことを学びたい」「こんな講座なら参加者の役に立つ」という意見が出されました。ボランティアの希望に、司書の専門的な視点を加え、両者で講師選びから講座当日の段取りまで話し合いながら進めました。

毎回講座のはじめには、実行委員会会長が、「東村山昔話・うちのこづちができたわけ」を昔語り風に語りながら、市民と図書館のコラボレーションの様子を披露し、参加者から好評でした。講師のお話も理論あり実践ありで、役立つものばかりでしたし、ボランティアがリレー方式で絵本を読む「読み聞かせマラソン」や実行委員会が行う「おはなし会アラカルト」も、多様な本や手法を紹介できる企画として人気でした。

### 講座の成果とこれから

第2次計画期間である平成22年度からの3年間には、延べ1,700人がこの講座に参加しました。子どもの読書のために活動するたくさんの方の研修の機会になったこと、市内で活動するボランティア同士のネットワークができたことが大きな成果です。

24年度をもって、この講座は終了しますが、今後も引き続きボランティア活動の質を高め、子どもの読書環境を更に充実させることを目指して、「応援団」が楽しく学べる機会を提供していきます。

『きょういく東村山』第67号より

平成24年12月15日号

編集・発行 東村山市教育委員会